急性胆のう炎に対する内視鏡的経乳頭的胆のうドレナージの治療成績に関する研究

１．研究の対象

2017 年 4 月 1 日～2024 年 12 月 31 日に当院で急性胆のう炎に対し内視鏡的経乳頭的胆のうドレナージ術を受けられた方

２．研究目的・方法

胆のうは肝臓の下に位置しており、消化液である胆汁を一時的に貯めて濃縮し、食事摂取した時に収縮して濃縮した胆汁と食事が効率よく混ざることで消化を促す臓器です。年齢とともに胆のう内に胆石と呼ばれる石ができ、胆石が胆のうの出口に詰まってしまうことで胆のう内に膿がたまり、急性胆のう炎を発症してしまいます。急性胆のう炎に対する標準的治療は胆のう摘出術という手術治療ですが、患者さんの全身状態などから、手術が困難な場合においては、抗菌薬等の初期治療に続いて胆のうにチューブを入れて胆のう内の膿を抜くドレナージ治療を行うことが推奨されています。胆のうのドレナージ治療は以前よりエコーで胆のうを見ながら体表からチューブを胆のう内に留置する経皮経肝胆嚢ドレナージ(percutaneous transhepatic gallbladder drainage：PTGBD)があり、その有用性や安全性の高さから広く行われていますが、近年代替治療として内視鏡を用いて体内から胆のう内にチューブを留置するドレナージ法である内視鏡的経乳頭的胆嚢ドレナージ(endoscopic transpapillary gallbladder drainage：ETGBD)も行われるようになってきています。ETGBD はドレナージのチューブが体内に存在する利点がありますが、処置の難易度が高く、その処置の成功率は PTGBD に比べて低いと報告されています。今回当院で急性胆のう炎に対して ETGBD の治療を試みた方の診療録を調査して、ETGBD の治療成績と手技不成功に関連する因子を調査することで、その治療の成功率をあげることと合併症の発生率を下げるための対処法を検討します。

研究期間：研究機関の長の実施許可日～2026 年 12 月 31 日

３． 研究に用いる情報の種類

対象の患者さんのカルテより、臨床所見(年齢、性別、既往歴、内服薬、胆嚢炎重症度、胆嚢炎の成因、ETGBDを選択した理由等)、血液検査所見(白血球数、CRP等)、画像検査所見(胆嚢管の分岐と走行、総胆管径等)、ETGBDの成功の有無等の情報を調査します。

４．外部への情報の提供

外部への情報の提供は行いません。

５．研究組織（利用する者の範囲）

医誠会国際総合病院	主任部長	古賀　英彬
	副部長	杉山　浩平
	医長	宇都宮　蘭
	医長	森本　和宏
	医長	若原　佑平
	医員	佐藤　直人
	医員	江口　大樹
	医員	奥村　麻里

６．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究実施計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

医誠会国際総合病院
住所：大阪府大阪市北区南扇町 4－14　tel：0570-099166
担当者：消化器内科　古賀　英彬

研究責任者：

医誠会国際総合病院　消化器内科　古賀　英彬